

立川市の 重層的支援体制整備事業

～課題解決型支援から伴走型支援へ～



令和4年3月10日
立川市高齢福祉課

立川市概要

立川市は東京都のほぼ中央に位置しています。国から首都圏の「業務核都市」に位置付けられており、文化、研究、防災などの広域的な都市機能が整備され、国や都の各機関、医療機関などが集まっています。

まちの玄関口であるJR立川駅には、JR中央線・青梅線・五日市線・南武線が乗り入れ、多摩モノレールや西武拝島線、路線バスなどが通り、多摩地域の交通の要となっています。



立川市

面積
24.36 km²

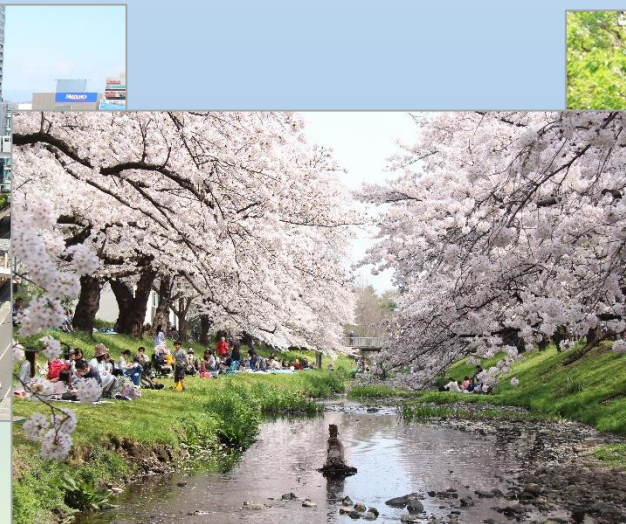
人口
184,195人

世帯数
92,734世帯

(令和2年4月1日現在)



【JR立川駅北口】



【根川緑道】



【玉川上水】

立川市概要（高齢福祉・地域福祉）

立川市は、日常生活圏域として市内を6つの圏域に分けて、地域包括支援センターの設置やサービス基盤の整備等を行っています。

またこの圏域は、民生委員・児童委員の地区割とも一致しており、各地域包括支援センターに配置されている地域福祉コーディネーター（立川市社会福祉協議会職員）と連携し、圏域ごとに、相談対応や地域づくりが推進されています。



- ★立川市地域包括支援センター
- 立川市福祉相談センター

各圏域の状況（R2年10月1日）

圏域名	総人口	高齢化率
南部西	29,599人	26.73%
南部東	27,288人	23.19%
中部	26,653人	18.93%
北部東	24,755人	28.62%
北部中	41,855人	24.79%
北部西	34,289人	25.43%
合計	184,439人	24.65%

計画の位置づけ

「すべての人が自分らしくいきいきと、
生きがいをもって暮らせる地域をめざして」

立川市では次の**3つ**のことを
重点的に取り組みます

相談支援包括化推進員^{※1}を配置し、
さまざまな専門機関と連携して、
身近な地域で
まるごと相談を受け止めます

※1 相談支援包括化推進員
複合化・複雑化した課題に寄り添い的確に対応す
るため、各制度ごとの相談支援機関の総合的な
コーディネート等を行います。

地域福祉コーディネーター^{※2}の
活動を強化して、人と人、
人と地域をつなぎ、地域での
交流の場づくりを進めます

※2 地域福祉コーディネーター
小地域単位での「孤立のないまち」をめざし、
住民からの相談対応、住民同士や関係機関等との
連絡調整や情報収集を行いながら、住民福祉
活動の推進を図っています。現在立川市内6箇
所の福祉圏域に1名ずつ配置されています。

大小さまざまな多機能拠点
(仮称)地域福祉アンテナショップ^{※3}を
つくり、
身近な場所でふらっと立ち寄れる、
相談や交流、活動の場を
広げます

※3 (仮称)地域福祉アンテナショップ
地域での空き部屋や企業の空きスペース等
を活用し、住民主体の運営をベースとした、
相談や、サロン・コミュニティカフェの実
施など、さまざまなテーマで近隣住民の交
流を広くつなぐ、活動の場を表します。

【3つの重点推進事項のつながり】

(仮称)地域福祉アンテナ
ショップの設置

身近な場所で、ふらっと立ち寄れる、
相談や交流、活動の場を広げます



- ・情報がほしい
- ・近所の人と一緒に活動したい
- ・コミュニティカフェをひらきたい
- ・情報を発信したい

地域福祉コー
ディネーターの活動強化

人と人、人と地域をつなぎ、地域での
交流の場を増やし、孤立のないまちを
目指します

- ・同じような困りごとを抱え
ている仲間を見つけたい
- ・地域で得意なことを活か
したい
- ・家の空き部屋を地域で活用してほしい

市民

まるごと相談支援

多様で複雑な困りごとにより、解決の
お手伝いをします。
相談支援包括化推進員と協働し、行政や
専門機関と連携を図ります。

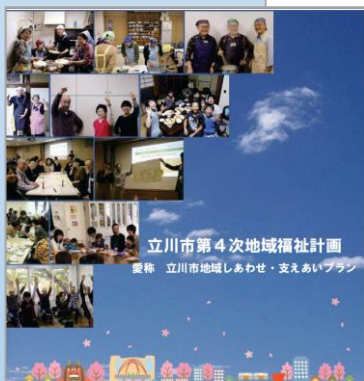
- ・高齢になり、手伝いを頼みたいが、障害のある子ども
には頼れない…。子どもの将来も心配
- ・育児と親の介護で大変そうな人がいる
- ・相談先がわからず、生活に困っている人がいる

第5次立川
あいあいプラン21

地域福祉市民活動計画-2020年度～2024年度
誰もがふつうに暮らしあわせなまち立川
の実現を目指して



社会福祉法人 立川市社会福祉協議会



立川市第4次地域福祉計画
愛称 立川市地域しあわせ・支えあいプラン

令和2(2020)年
立川市

立川市では、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「立川市第4次地域福祉計画」で、「地域共生社会の実現にむけた取組み」が位置づけられているとともに、市民の活動計画である「第5次立川市地域福祉市民活動計画（あいあいプラン21）」にも同様の計画があります。

「相談支援包括化推進員の配置」により『相談支援事業』を、「地域福祉コーディネーターの活動強化」と「(多機能拠点)地域福祉アンテナショップの開設」により『参加支援事業』『地域づくりに向けた支援』を行います。

立川市のこれまでの取り組み

【平成31年度】
* 高齢福祉課在宅支援係に8050担当配置



【令和2年度】
* 高齢福祉課に地域包括ケア推進係新設（1名）
* 立川市社会福祉協議会に相談支援包括化推進員（1名）配置

⇒ 重層的支援体制整備事業実施検討開始
⇒ モデルケース、ケーススタディという形で相談支援開始
⇒ 庁内連携会議開催
⇒ 高齢・障害・困窮制度の会議参加

等

（令和2年度相談対応件数 72件）

【令和3年度】
* 高齢福祉課地域包括ケア推進係に相談支援包括化推進員（1名）配置

⇒ 重層的支援体制整備事業への移行準備事業実施
⇒ 令和2年度に引き続き相談支援実施
⇒ 重層的支援体制整備事業実施に向けた庁内外の調整実施
（特に生活困窮担当・地域福祉担当・高齢福祉担当・社会福祉協議会で協議を重ねた）

等

（令和3年度相談対応件数100件）
12月末日時点
内、前年度からの継続51件

これまでの相談の種類

分野	令和2年度件数	令和3年度件数
高齢・介護/子ども/障害/困窮/その他	0	2
高齢・介護/子ども/障害/その他	1	0
高齢・介護/障害/困窮/その他	0	1
子ども/障害/困窮/その他	0	1
高齢・介護/子ども/障害	1	0
高齢・介護/子ども/困窮	1	1
高齢・介護/子ども/その他	0	1
高齢・介護/障害/その他	5	10
高齢・介護/障害/困窮	1	0
高齢・介護/困窮/その他	3	2
子ども/障害/その他	0	2
子ども/困窮/その他	0	1

分野	令和2年度件数	令和3年度件数
高齢・介護/子ども	1	0
高齢・介護/障害	12	6
高齢・介護/困窮	1	2
高齢・介護/その他	25	6
子ども/困窮	1	0
子ども/その他	1	0
障害/困窮	0	2
障害/その他	3	4
困窮/その他	0	2
高齢・介護	1	0
子ども	1	0
障害	6	4
困窮	1	0
その他	7	2
計	72	49

新規受付数 R3年度は12月末まで実績

その他: ひきこもり、不就労(困窮していない)、病気、依存症等

令和3年度の状況

相談者（本人・支援者）

相談

支援

相談支援包括化推進員が受けた相談をケースごとに関連する機関と連携し、支援を実施しています。

自立相談支援機関

相談支援包括化推進員

地域福祉
コーディネーター

保健所

介護サービス事業所

民生委員・児童委員

医療機関

居住支援法人

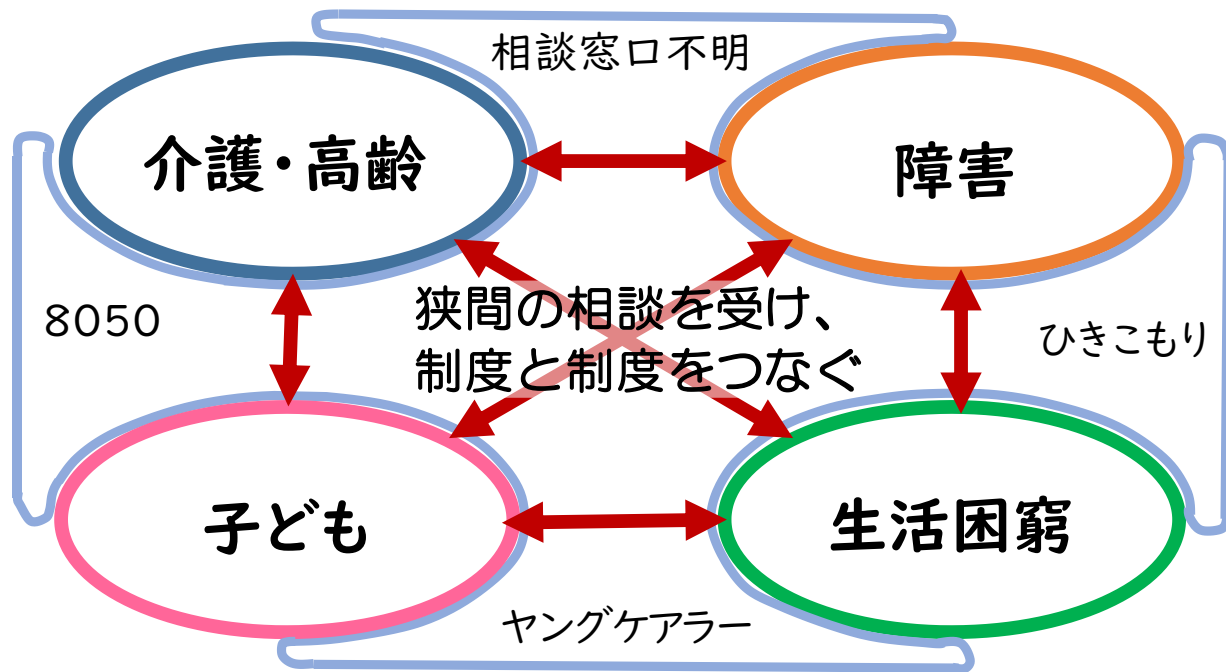
学校・SSW

障害サービス事業所

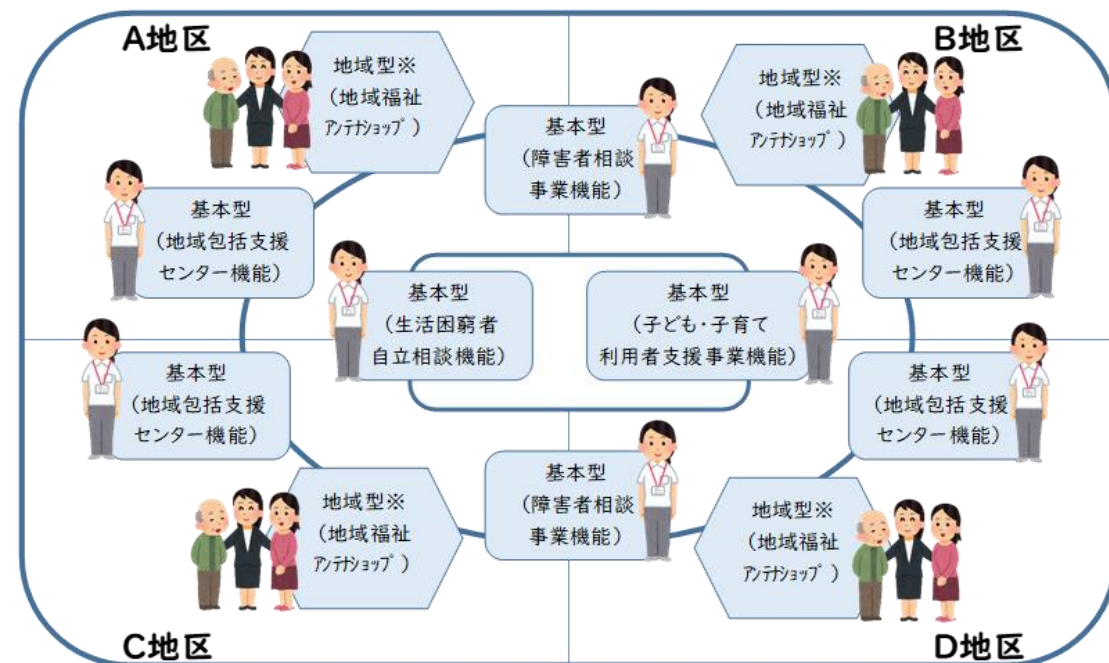
若者サポート
ステーション

行政各部署

令和4年度に向けて（窓口）

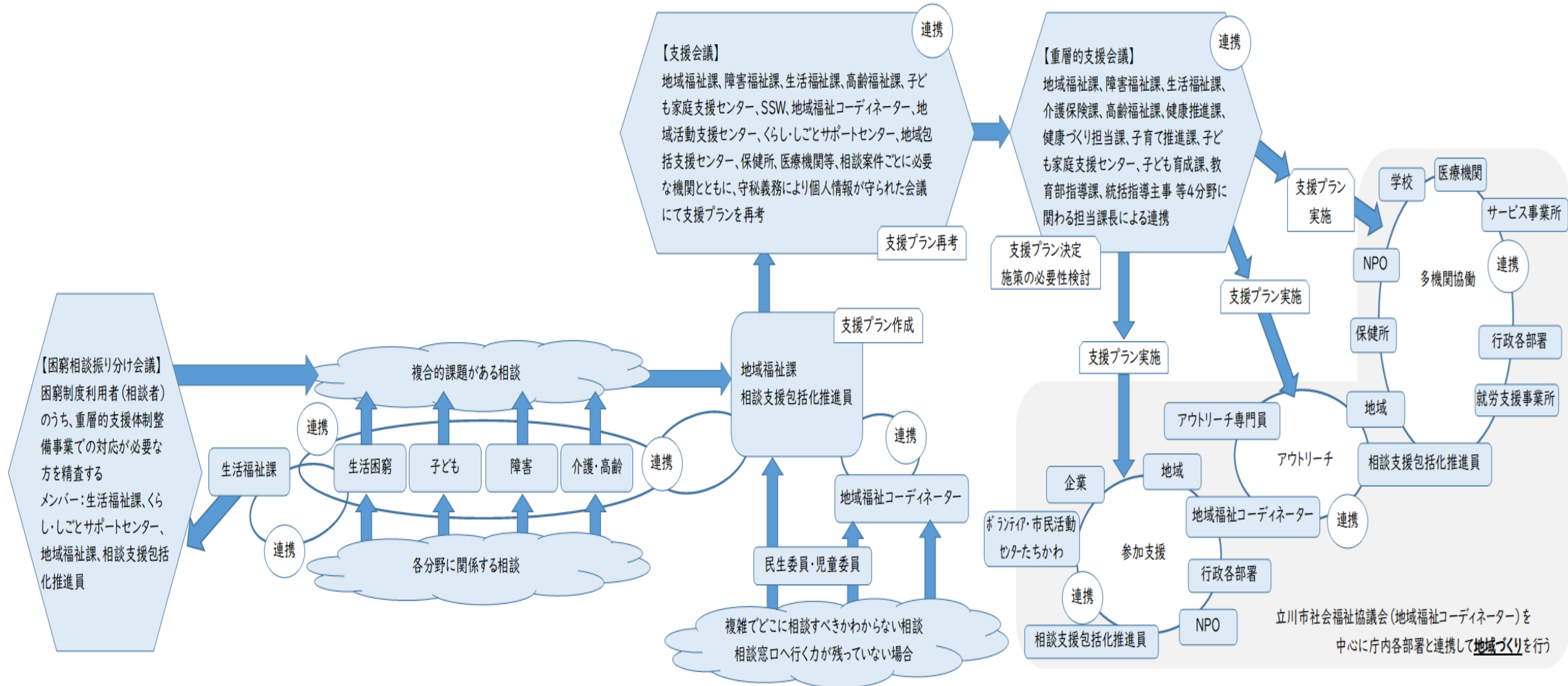


【事業実施イメージ図】



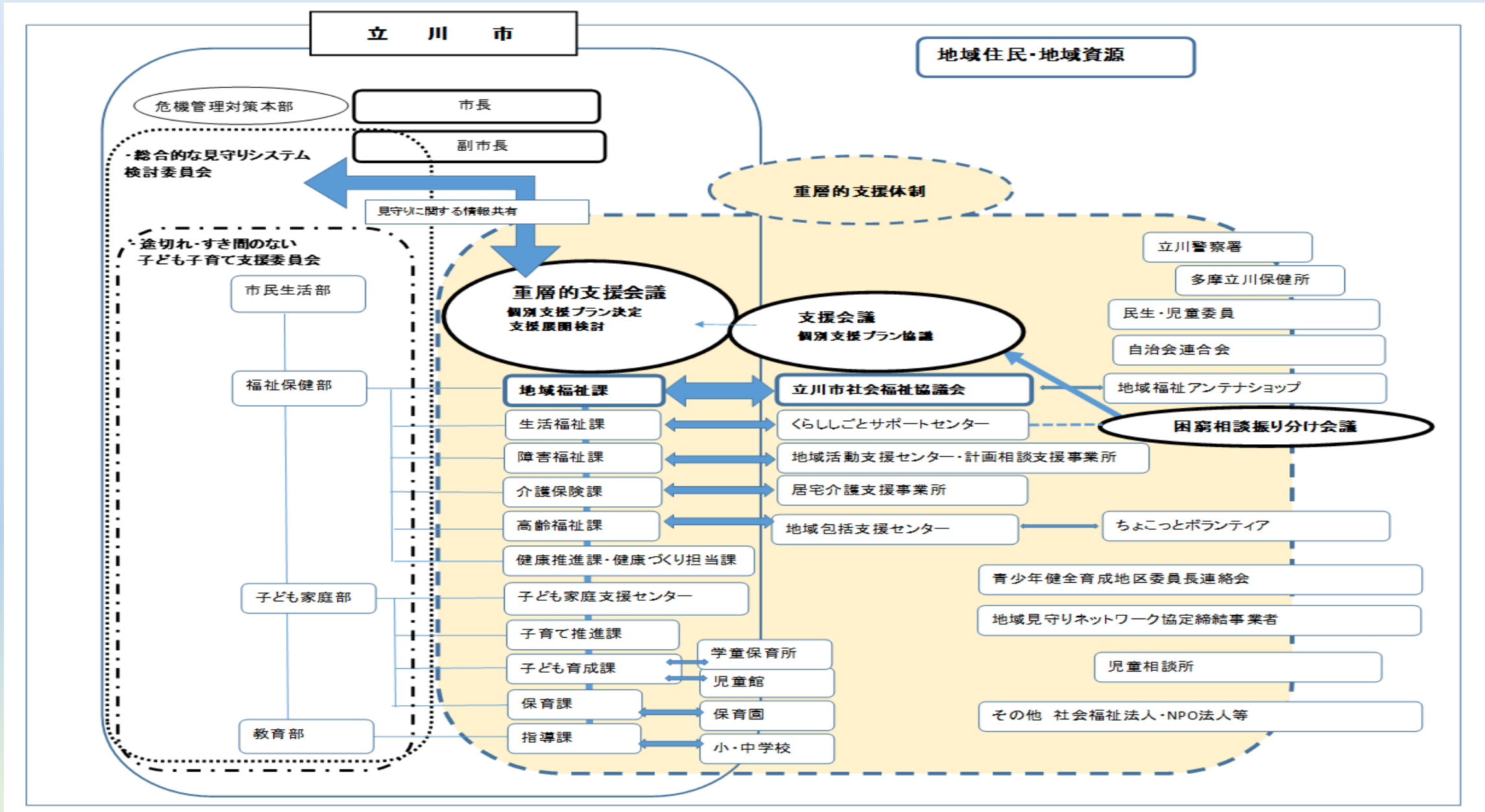
【相談窓口イメージ図】

令和4年度に向けて（体制全体像）



【全体概要イメージ図】

令和4年度に向けて（連携のイメージ）



コーディネーターによる地域づくり

立川市では、2つのコーディネーターが、「孤立のないまち」「住民が困りごとの解決に参加できるまち」を目指して、役割づくりや居場所づくりを行いながら、地域のご縁を繋いでいます。

《配置の経過》

○地域福祉コーディネーター

- 平成19年 北部東地区にモデル配置
- 平成22年 北部西地区に配置
- 平成25年 南部東地区に配置
- 平成27年 南部西地区、中部、北部中地区に配置し、全地区配置となる

○生活支援コーディネーター

- 平成27年 1名配置（1層）
- 平成28年 1名配置（1.5層を2名）

相談の入り口である「相談支援」、社会参加へつながる「参加支援」を担うとともに、これまでの地域との関係性を活かした『地域づくり』に力を入れることで、地域の皆さんが自助・互助による課題解決に取り組めるようサポートを行っていきます。



令和3年度

地域福祉コーディネーター
各圏域1人（計6人）

生活支援コーディネーター
南北各1人（計2人）

これまでも地域において市民の相談を受け、様々な機関につないだり、地域住民のやる気を活かした様々な活動の支援を行ってきた「地域福祉コーディネーター」を、各圏域2名体制にすることで活動強化を目指しています。

令和4年度

地域福祉コーディネーター
兼

生活支援コーディネーター

各圏域2人（計12人）

地域福祉アンテナショップの展開



【にここサロン入口】



【実行委員会の様子】



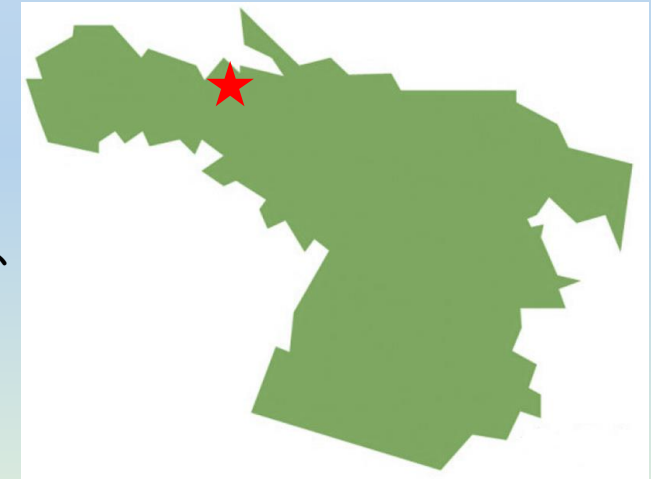
【わくわくフリーディの様子】

地域福祉アンテナショップは、地域の多機能拠点です。身近な場所で、だれもが気軽に、ふらっと立ち寄れる地域の拠点を目指しています。

地域の空き部屋や企業・団体等の空きスペースを活用し、住民が主体となって運営していくもので、サロンやコミュニティカフェなど、地域の方々を広く繋ぎ、地域のつながりを広げる「アンテナ」の役割を果たします。

現在、立川市北西部の一番町市営住宅内の一室で「アンテナショップ」を開催しています。

住民の方による実行委員会で、地域の方に広く知ってもらうためのイベント（フリーディ）の開催等を行っています。



今後の地域福祉アンテナショップの展開については、立川市地域福祉推進員会で検討していきます。